



2017年5月 プール組分け抽選会

ラグビーワールドカップ2019

アジア初開催の成功に向けて

ラグビーワールドカップ2019組織委員会会長

御手洗富士夫

みたらい ふじお



一生に一度の日本大会

待ちに待ったRWC(ラグビーワールドカップ)2019日本大会が、いよいよ9月20日に開幕する。2009年の誘致決定以来、RWC2019組織委員会は、足かけ10年にわたって周到な大会準備に全力を傾けてきた。この間の関係者のご支援、わけても堅牢な財源の確保にご協力いただいた経団連の主要企業の皆様には厚くお礼申しあげたい。

言うまでもなく、私どもの悲願は、日本大会のすべての試合を満席とし、成功に導くことである。そのためにも、1人でも多くの皆様に全国12会場19自治体(札幌市、

岩手県・釜石市、埼玉県・熊谷市、東京都、神奈川県・横浜市、静岡県、愛知県・豊田市、大阪府・東大阪市、神戸市、福岡県・福岡市、熊本県・熊本市、大分県)で開催される48の熱戦に足をお運びいただきたい。

この8月には、チケットの第4次販売を行う予定である。世界屈指の強豪20チームが競う試合はいずれも興味深く、ドラマが期待されている。チケットサイトでは各試合の見どころを紹介している。これらも参考にさせていただき、この機会に遠隔地での観戦旅行のご計画をお勧めしたい。そして、「一生に一度」といわれるこのチャンスを見逃すことのないよう、チケットの購入とともに各自治体等が準備している多くのパブリックビューイングへの参加をお願いしたい。

大会の意義

経済界がRWC2019日本大会の全面支援を決めたのは、(1)地域経済の底上げ、(2)国際交流の推進、(3)ラグビーの普及による青少年育成の強化、の3点で大きな意義があるからである。

(1) 経済効果

準備期間中に、地域交流等の取り組みに対する特別交付税措置や開催自治体または公認チームキャンプ地の施設改修にかかる地方債措置などを背景として、関連インフラ整備が増え、経済効果は、当初の推計額である4300億円を大きく上回るものとみられている。特に、新設・改修されたスタジアムと整備された交通、宿泊施設などのインフラは新たなビジネスを生むものと期待されている。

また、12会場に加えて55の公認チームキャンプ地が全国に構えられ、各地で20チームを受け入れる体制づくりが進んでいる。海外からは当初の予想を上回る約50万人以上の観戦客が訪日するとみられる。昨年わが国を訪れた海外観光客3100万人はアジアからが大宗を占めた。日本大会では、これに加えて、ラグビーファンの多い欧米・豪州からの観光客を拡大する機会となる。リピーターも増えるものと期待している。

(2) 国際交流

海外からのファンは、試合観戦だけでなく、会場周辺の観光地を訪れたり、各種のイベントに参加したりして、各地で人々との交流が生まれる。これにより、地域経済の活性化が図られる。さらに、こうした国際交流の大きな機運は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西へと引き継がれる。



2018年9月 大会1年前イベント



2019年3月 ボランティアユニフォーム発表会

(3) 人材育成

さらに、少年のためのタグラグビー・プログラムなどが各地で立ち上げられる。ご存じの方も多いと思うが、ラグビー憲章には、(1)インテグリティ(品位)、(2)パッション(情熱)、(3)ソリダリティ(結束)、(4)ディシプリン(規律)、(5)リスペクト(尊重)の5つのコア・バリューが掲げられている。これらは人間力の涵養に大きく貢献するといわれており、ラグビーを通じて、わが国の次代を担う人材の育成が大いに推進されるものと確信している。



2017年11月 試合日程発表会

🌸 **日本大会まで**

RWC2019組織委員会では大会準備の総仕上げとして、7月27日にファイザー(於釜石鶴住居復興スタジアム)、8月3日にトンガ(於東大阪市花園ラグビー場)、9月6日に南アフリカ(於熊谷ラグビー場)との日本代表のテストマッチ(各国代表チーム同士の正式な国際試合)において、本番を想定した人員の配置や機材の運用を行うこととしている。これらの試合は、日本代表の活躍を占う試金石でもある。多くの方々に、前哨戦をお楽しみいただきたい。

また、国内の機運醸成のため、トロフィーツアーを含むさまざまなイベントが目下、計画もしくは実施されている。テストマッチと並んでこれらのイベントが日本大会の期待感をさらに膨らませていくものと思う。

🌸 **世界に伝えたい日本のラグビー文化**

折しも、アジア初のRWCは、令和の新時代を迎えた日本で開催されることとなった。この機会をとらえ、「ワンフォーオール、オールフォーワン」や「ノースайд」の精神、最後までひたむきにプレーする文化など、過去120年の間に培ってきた素晴らしい日本独自のラグビー文化を世界に向けて発信し、次世代に伝えてまいりたい。

その一環として、9月20日の開会式と開幕戦では、「Rugby for tomorrow」のテーマのもと、スタンドに世界、アジアの子どもたちを招いて、セレモニーとラグビーを見てもらう趣向である。経済界の皆様には、11月2日の閉会式までの4カ月間、RWC2019日本大会にぜひとも目を離さずご支援いただきたい。